

介護老人保健施設オアシス21 療養棟

症例概要 入所者氏名： M,M 様 男性 60代 要介護度 1

病名：高次機能障害

経過：H25年1月 飲酒後自宅で転倒され脳挫傷を受傷。T病院に入院し右下肢麻痺と高次機能障害が残存。高次機能障害に伴う人格障害があり、妻の言動に易怒的で「馬鹿にしているのか!」と立腹し、妻との関係が悪化。アルコール依存でN病院に入院。退院後も妻の介護ストレスが大きく、オアシス21にて定期的に短期入所をご利用になる。後ろ向きだったご利用者がオアシスの短期入所をきっかけに地域とも繋がり、社会参加ができ、少しずつ自身を取り戻し、夫婦関係も改善。「オアシスに来たら心が元気になる」という理念実現時の姿に沿って支援できた症例。

内 容

初めはオアシス（短期入所）の利用を嫌がりしぶしぶ利用されていました。M様は以前は高校の数学教師であることを職員間で共有していたことから、オアシスで馴染めるようにと数学塾を開催することを提案。本人も少しずつ意欲が出てきて、短期入所の前には自宅で数学の問題集を作成するなど頑張っていました。しかし、数学教師としての立場での問題は一般人には難しすぎて、他のご利用者からは受け入れてもらえず、結局2回で終了することになってしまいました。ある日、職員との何気ないコミュニケーションの中での「私はコーヒーが好きで、朝には豆を自分で挽いて、妻と2人でコーヒーを飲んでいるんだ。」と話して下さったことから、奥様にこの会話をお話したところ「入れてくれる珈琲がただ苦くて不味い。」と言われてました。M様の趣味や喜びが分かったところで、今年の感謝祭（敬老会）に向けて喫茶店マスターになっていただくとうと企画。提案してみると「いいんですか?僕で?是非やらせてもらいたい。」と仰られました。企画では『今年の感謝祭の喫茶店では美味しい珈琲を出そう!』としていたこともあり、地元花川の有名珈琲店『徳光珈琲』にお願いして、珈琲の美味しい入れ方教室にM様と職員が参加。豆の挽き方やお湯の注ぎ方など細かく教わったところ、入れ方ひとつで珈琲の味が違うことにM様本人が1番びっくりされ驚かれていました。それから本番まで毎日練習をかかさず、「感謝祭で皆様に美味しい珈琲を飲んでもらいたい。」張り切っておられました。いつもは1泊の短期入居ですが感謝祭の前日は2泊してリハーサル。

更に当日は台風18号が接近の中、徳光珈琲の社長が「現場で1度練習しないと勝手が違うから。」と前日に再度入れ方をオアシスに来て頂きレクチャー。

感謝祭当日は台風が直撃するなか、ご利用者や、ご家族様も【喫茶●●茶房】に多く来られ珈琲を注文。M様は混乱することなく落ち着いて、ゆっくり自分のペースで珈琲を入れることができました。皆様から「美味しい!」とっていただけでM様も「頑張ったかひがあります。」と満面の笑顔でした。今は自宅でも妻にモーニング珈琲をいれており、奥様からも「本当に珈琲が美味しくなった」「オアシスで役割をもつて生き生きと生活できていて夫婦関係も改善した」とお礼のお言葉を頂いています。

後ろ向きだったご利用者がオアシス短期入所から地域とも繋がり、社会参加ができ、少しずつ自身を取り戻し、夫婦関係も改善。「オアシスに来たら心が健康になる」という理念実現時の姿に沿つて支援できた事例としてキラキラ介護賞に推薦します。